



〈第9回 Interventional Radiology 優秀論文賞〉

Miyuki Sone, et al.
Impact of Work Environment on Job Satisfaction
among Interventional Radiologists in Japan:
A Cross-sectional Study
Interventional Radiology 2024; 9: 13-19.

「日本のIVR医における職務満足度と 職場環境の影響：横断研究」

1. 論文の要旨

目的：本研究の目的は、日本のIVR医の職務満足度を測定し、その関連要因を解析することである。

対象と方法：2021年10月から12月に、日本IVR学会会員を対象にWebアンケート調査を実施した。職務満足度、勤務状況および背景情報を収集し、関連15項目についての主成分分析と職務満足度に影響する因子の解析を施行した。

結果：対象2,824名のうち901名(31.9%)から有効回答を得た。職務に「満足」(非常に満足+やや満足)と回答した医師は505名(56.0%)であった。主成分分析にて、職務満足度に関連する3つの主成分が抽出された。職務満足度と正の関連を示したのは、IVR手技件数が多いこと、勤務時間に占めるIVR業務の割合が高いことおよび第1主成分(臨床・研究・IVR教育環境)であった。一方、第3主成分(給与および労働環境)および「イクボス」(部下のワークライフバランスを支援する職場環境づくりに積極的に取り組む上司)の不在は、職務満足度の低下と関連していた。

結論：回答者の半数以上が高い職務満足度を示した。日本のIVR医の職務満足度は、良好な臨床・研究・教育環境およびIVR業務への高い従事割合と正の関連を示した。一方で、イクボスの不在、IVR以外の業務負担、時間外労働、給与・労働環境に関する問題は、職務満足度の低下と関連していた。

2. 解 説

(1) 本研究の経緯

本研究は、日本IVR学会ダイバーシティ&インクルージョン・ワーキンググループ(D&I WG、現D&I委員会)の活動の一環として企画されました。

2019年、第48回日本IVR学会総会(会長：興梠征典先生)において、学会初の「Women in IR」セッションが開催されました。当時の理事長であった吉川公彦先生も登壇され、女性IVR医の勤務環境改善やIVR医の実態調査の実施方針が示されました。これを機に、三村秀文先生を委員長としてWGが発足しました。

WGの最初の活動として女性IVR医を対象としたアンケート調査を行い、CIRSEの調査結果との比較を実施しました。さらに、IVR医としてのやりがいや満足感といったポジティブな側面も評価すること、男女を問わず日本のIVR医全体を対象とすることが重要との共通認識に至り、本調査を計画しました。

私自身は、日本放射線科専門医会・医会(JCR)と日本医学放射線学会(JRS)の協働で実施した「放射線科医の動向に関する調査研究2008」に携わった経験があります。放射線科医全体の職務満足度は67.7%でしたが、IVR医の満足度も70%と高く、IVRの魅力が数字として示されたことを印象深く覚えています。

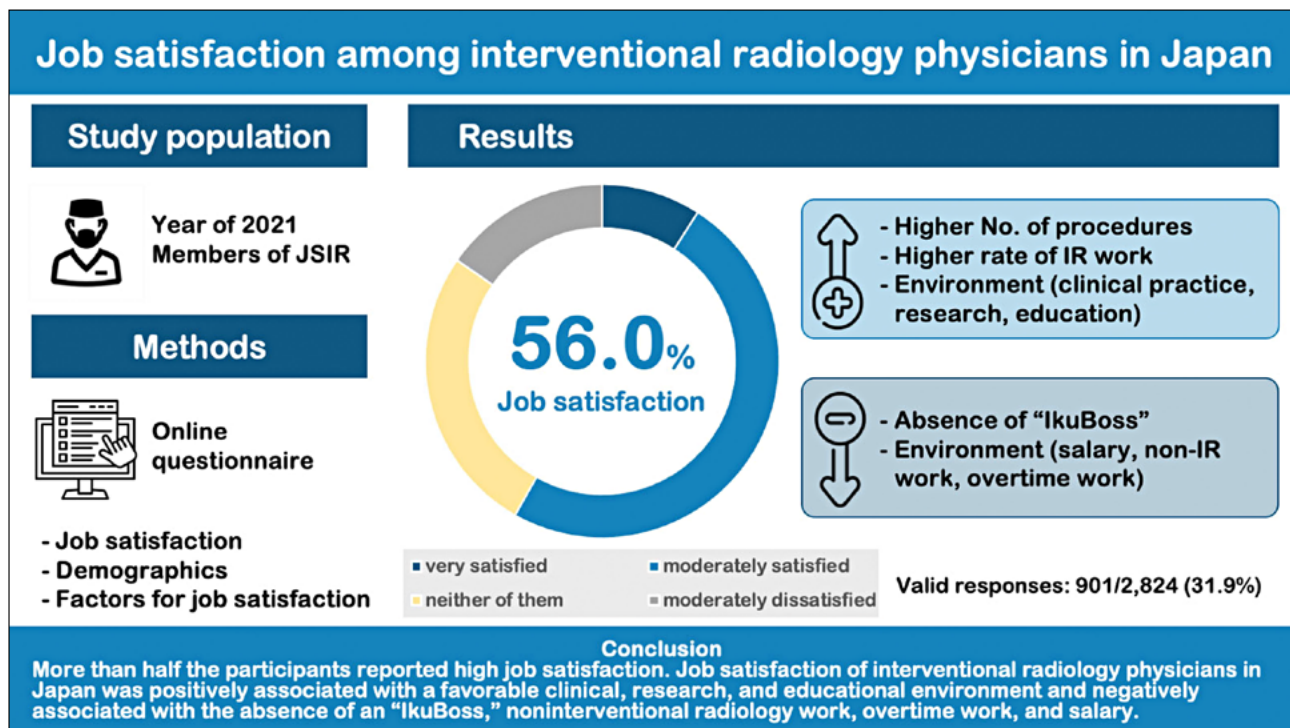
また、東京大学の康永秀生先生には、JCR/JRS研究でご指導いただいたご縁をもとに、本研究でも中心的な役割を果たしていただきました。現在進行中の産科出血IVRに関する調査研究でも引き続きご尽力いただいております。この場を借りて深く感謝申し上げます。

(2) 調査結果から見てきたこと

IVR医の職務満足度56.0%という結果を高いとみるか低いとみるかは意見が分かれるかもしれません。調査方法が異なるため単純比較はできませんが、2008年のデータと比べると低く、職務満足度向上に向けた取り組みの重要性を改めて感じました。

本研究で、職務満足度と最も強く関連していたのは「臨床・研究・教育環境」に関する因子でした。IVR医は単に手技を行うだけではなく、新しい技術への挑戦、研究活動、教育を通じて成長したいという意欲を強く持っていることが示唆されました。仕事のやりがいは、やはり職務満足度の根幹をなすものと言えるでしょう。また、IVR業務への従事割合や手技件数が多いほど職務満足度が高いことも興味深い結果でした。自らの専門性を発揮できる環境が満足度につながることを示していると考えられます。

一方、「イクボス」の存在が職務満足度と関連していたことも重要な知見でした。若手や子育て世代を支援しながら組織を成長させるリーダーの存在は、今後ますます重要になるでしょう。さらに、給与や労働環境も独立した関連因子として抽出されました。やりがいや使命感も重要ですが、適切な評価や待遇が伴わなければ職務満足度は維持できません。当たり前のことではありますが、それをデータとして示せた意義は大き



いと思います。

職務満足度の向上は、個人の幸福だけでなく、IVRという専門領域の発展に直結すると考えられます。働きやすく、やりがいのある環境は、リクルートや離職防止につながり、結果としてIVRの発展を支えます。本研究の結果が、各施設における人材育成や職場環境改善の参考になることを願っております。

最後に、本研究にご尽力いただいたD&I WG (現D&I委員会) 委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、ご多忙の中アンケート調査にご協力いただいた会員の皆様、本研究を評価いただいたInterventional Radiology編集委員会にも深く感謝申し上げます。

私は2026年から2028年まで日本IVR学会理事長を務めることとなりました。学会として、IVR医がより働きやすく、より成長できる環境づくりを進めるとともに、多様な人材が活躍し、若い世代が明るい未来を思い描けるIVRの実現を目指していきたいと思っています。

文 献

- 1) Sone M, Yasunaga H, Osawa M, Takeguchi Y, Han A, Akiyama N, Kamiya M, Woodhams R, Yoshimatsu R, Nakatsuka A, Kakeda S, Takase K, Mimura H, Yamakado K. Impact of Work Environment on Job Satisfaction among Interventional Radiologists in Japan: A Cross-sectional Study. *Interventional Radiology* 2024; 9: 13-19.
- 2) Wah TM, Belli AM. The Interventional Radiology (IR) Gender Gap: A Prospective Online Survey by the Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe (CIRSE). *Cardiovasc Intervent Radiol*. 2018; 41: 1241-1253.
- 3) Sone M, Mizunuma K, Nakajima Y, Yasunaga H, Ohtomo K. Job satisfaction, income, workload, workplace, and demographics of Japanese radiologists in the 2008 survey. *Jpn J Radiol*. 2013; 31: 364-70.

この論文はJ-STAGEにて閲覧・ダウンロードが可能です。
DOI <https://doi.org/10.22575/interventionalradiology.2023-0022>
J-STAGE 英文誌ホーム
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/interventionalradiology/-char/en>
日本IVR学会Interventional Radiology ホームページ
<https://ir-journal.jp/>

